

1. $S^2 := \{\mathbf{u} \in \mathbb{R}^3 \mid |\mathbf{u}| = 1\}$ の向きを $\mathbf{n}: S^2 \rightarrow \mathbb{R}^3$, $\mathbf{n}(\mathbf{u}) = \mathbf{u}$ で与える. $D^\circ := \{(s, t) \in \mathbb{R}^2 \mid s^2 + t^2 < 1\}$ とおき, $V_z^+ := \{(x, y, z) \in S^2 \mid z > 0\}$ 上の局所座標 $\varphi: D^\circ \rightarrow V_z^+$, $\varphi(s, t) := (s, t, \sqrt{1-s^2-t^2})$ を考える.
- (1) $\partial_s \varphi := \frac{\partial \varphi}{\partial s}$ などと略記する. $\hat{\mathbf{n}} := \partial_s \varphi \times \partial_t \varphi$ を計算し, φ は向きを保つ局所座標であることを示せ. つまり, 任意の $\mathbf{a} \in D^\circ$ に対し $\mathbf{u} = \varphi(\mathbf{a})$ とおくと, $\hat{\mathbf{n}}(\mathbf{a}) = k\mathbf{n}(\mathbf{u})$ となる $k > 0$ が存在することを示せ.
- (2) \mathbb{R}^3 上のベクトル場 $\mathbf{V}(x, y, z) := (x, y, z)$ に対し, $\mathbf{V}(\varphi(s, t))$ を求めよ. また $\mathbf{V}(\varphi(s, t)) \cdot \hat{\mathbf{n}}(s, t)$ を求めよ.
- (3) $\varphi(D^\circ) = V_z^+$ であることを示せ.
- (4) $\int_{V_z^+} \mathbf{V} \cdot d\mathbf{S} := \int_{D^\circ} \mathbf{V}(\varphi(s, t)) \cdot \hat{\mathbf{n}}(s, t) ds dt$ を計算せよ.
- (5) $\varphi': D^\circ \rightarrow V_z^+$ を, $\varphi'(s, t) := (t, s, \sqrt{1-s^2-t^2})$ で定義する. φ' は向きを保つ局所座標ではないことを示せ.
- (6) $\hat{\mathbf{n}}' := \partial_s \varphi' \times \partial_t \varphi'$ とおく. $\int_{D^\circ} \mathbf{V}(\varphi'(s, t)) \cdot \hat{\mathbf{n}}'(s, t) ds dt$ を計算し (4) と比較せよ (問題 4 も参照).
2. S^2 の向き $\mathbf{n}: S^2 \rightarrow \mathbb{R}^3$ は問題 1 と同じとする. $V_+ := \{(x, y, z) \in S^2 \mid z > -1\}$ とおき, 各 $\mathbf{u} \in V_+$ のまわりの局所座標 $\psi: \mathbb{R}^2 \rightarrow V_+$ として $\psi(s, t) := \frac{(2s, 2t, 1-s^2-t^2)}{1+s^2+t^2}$ を考える (演習 8 (6/2) の立体射影).
- (1) ψ は向きを保つ局所座標であることを示せ.
- (2) ベクトル場 $\mathbf{V}(x, y, z) := (x, y, z)$ に対し, $\int_{V_+} \mathbf{V} \cdot d\mathbf{S}$ を計算せよ.
- (3) $\psi(D^\circ)$ は問題 1 の V_z^+ に一致することを示せ. $\psi: D^\circ \rightarrow V_z^+$ を使って $\int_{V_z^+} \mathbf{V} \cdot d\mathbf{S}$ を計算し, 1. (5) と比較せよ.
3. C^∞ 級関数 $f: \mathbb{R}^3 \rightarrow \mathbb{R}$ をスカラー場とも呼ぶ. 向きづけられた曲面 S に対し, $\mathbf{u} \in S$ のまわりの向きを保つ局所座標 $\varphi: U \rightarrow S$ を取って, スカラー場 f の $A := \varphi(U)$ に沿った面積分を次のように定義する:

$$\int_A f dS := \int_U f(\varphi(s, t)) |\hat{\mathbf{n}}(s, t)| ds dt, \quad \text{ただし } \hat{\mathbf{n}} := \partial_s \varphi \times \partial_t \varphi.$$

- (1) $\int_A f dS$ は向きを保つ局所座標 φ の取り方によらないことを示せ.
- (2) 定数関数 1 に対し, $\int_A 1 dS$ を A の面積と呼ぶ. 問題 2 の $\psi: \mathbb{R}^2 \rightarrow V_+$ に対し, $\int_{V_+} 1 dS$ を計算せよ.
4. (S, \mathbf{n}) を向き付けられた曲面とする. $\mathbf{u} \in S$ のまわりの局所座標 $\varphi: U \rightarrow S$ と $\varphi': U' \rightarrow S$ で, φ は向きを保ち, φ' は向きを保たず, $\varphi(U) = \varphi'(U') \subset S$ をみたすものをとる. このとき \mathbb{R}^3 のベクトル場 \mathbf{V} に対し次を示せ:

$$\int_U \mathbf{V}(\varphi(s, t)) \cdot \hat{\mathbf{n}}(s, t) ds dt = - \int_{U'} \mathbf{V}(\varphi'(s, t)) \cdot \hat{\mathbf{n}}'(s, t) ds dt$$

5. トーラス T の局所座標として, 演習 10 (6/23) 問題 3 の $\varphi: (0, 2\pi) \times (0, 2\pi) \rightarrow T$ を取る.
- (1) S の向き $\mathbf{n}: T \rightarrow \mathbb{R}^3$ を, \mathbf{n} が T で囲まれる有界領域から非有界領域に向かうよう定義する. φ は向きを保つ局所座標か? (ヒント: 例えば $\varphi(\pi, \pi)$ における \mathbf{n} の向きを見れば十分)
- (2) $\mathbf{V}(x, y, z) := (y, -x, z)$ に対し, $\int_{\varphi(U)} \mathbf{V} \cdot d\mathbf{S}$ を計算せよ.
- (3) $\varphi(U)$ の面積 (問題 3 参照) を計算せよ.
6. 一般に, $\mathbf{u}, \mathbf{v} \in \mathbb{R}^3$ と $a, b, c, d \in \mathbb{R}$ に対し, $(a\mathbf{u} + b\mathbf{v}) \times (c\mathbf{u} + d\mathbf{v}) = (ad - bc)\mathbf{u} \times \mathbf{v}$ であることを示せ. これを使って補題 78 の証明を完成させよ.

(提出の必要はありません)

補足：局所座標が向きを保つか否かの判定について。

(S, \mathbf{n}) を向きづけられた曲面とし、 $\varphi: U \rightarrow S$ を $\mathbf{u} \in S$ のまわりの局所座標とします。 $\hat{\mathbf{n}} := \partial_s \varphi \times \partial_t \varphi: U \rightarrow \mathbb{R}^3$ とおくと、任意の $\mathbf{a} \in U$ に対し

$$\hat{\mathbf{n}}(\mathbf{a}) = k\mathbf{n}(\varphi(\mathbf{a})) \quad (\in T_{\varphi(\mathbf{a})}^\perp S) \quad (*)$$

となる $k \neq 0$ が存在します（その値は一般に \mathbf{a} によって変化するので、本当は $k = k(\mathbf{a})$ と書くべき）。任意の $\mathbf{a} \in U$ に対し $k > 0$ であるとき、 φ は向きを保つ局所座標である、といたしました。 $\hat{\mathbf{n}}$ を「 φ が決める $\varphi(U)$ 上の向き」と呼ぶことにすると、元々与えられた向き \mathbf{n} と、 φ が決める $\varphi(U)$ 上の向き $\hat{\mathbf{n}}$ が同じ方向を向くとき、 φ は向きを保つ、というわけです。

φ が向きを保つか否か調べるには、任意の $\mathbf{a} \in U$ について、(*) をみたま k の符号を調べる必要があります。しかし実際には次のことが言えます：

補題. ある一つの $\mathbf{a} \in U$ について (*) をみたま k が正なら、 φ は向きを保つ局所座標である。

証明. $\hat{\mathbf{n}} := \begin{pmatrix} \hat{n}_1 \\ \hat{n}_2 \\ \hat{n}_3 \end{pmatrix}$, $\mathbf{n} \circ \varphi := \begin{pmatrix} n_1 \\ n_2 \\ n_3 \end{pmatrix}$ とおくと、 \hat{n}_i や n_j ($i, j = 1, 2, 3$) はいずれも二変数の連続関数です。任意の $\mathbf{a} \in U$ に対し $\mathbf{n}(\varphi(\mathbf{a})) \neq \mathbf{0}$ ですから、少なくとも一つの $i \in \{1, 2, 3\}$ に対し、 \mathbf{a} の近くで $n_i \neq 0$ です。この i について、 \mathbf{a} の近くで $k = \frac{\hat{n}_i}{n_i}$ が成り立つので、 k は任意の \mathbf{a} の近くで（従って U 全体で）連続です。しかも $k \neq 0$ ですから、 k の符号は U 上で一定です（連続関数が符号を変える瞬間には必ず 0 を通る）。よって、ある一つの $\mathbf{a} \in U$ に対し $k(\mathbf{a}) > 0$ なら、 U 全体で $k > 0$ です。□

$k(\mathbf{a})$ の符号を調べる時、 \mathbf{a} はどれでもよいわけですが、計算しやすいものを選ぶとよいと思います。例えば 6/30 の問 1. (1) の場合、 $\mathbf{a} = (s, t) = \mathbf{0}$ において $\hat{\mathbf{n}}(\mathbf{a})$ と $\mathbf{n}(\varphi(\mathbf{a}))$ を比べると簡単です。

幾何入門レポート問題 11 (2017 年 6 月 30 日)

担当：境 圭一

6/30 の問題 1 の状況で, $\mathbf{W}(x, y, z) := (-y, x, z)$ に対し, $\int_{V_z^+} \mathbf{W} \cdot d\mathbf{S}$ を計算せよ.

(7/7 の 3 限開始時まで提出してください)

http://math.shinshu-u.ac.jp/~ksakai/17_geometry/17_geometry.html